

大阪府済生会茨木病院で行っている下記の人を対象とする医学系研究について、情報公開しています。これらの研究の利用目的や方法等についてお知りになりたい場合、これらの研究への試料・情報利用についてご了承できない場合等、お問い合わせがありましたら研究責任者または担当者にご連絡ください。ただし、他の方の個人情報や研究の知的財産に関わること等は、お答えできないこともありますのでご了承ください。

研究課題名	腎生検の出血性合併症ハイリスク群に対する、Type&Screen（T&S）での輸血準備の有効性調査
当院の診療科・研究責任者及び研究分担者	大阪府済生会茨木病院腎臓内科 研究責任者 副部長 谷野彰子 研究分担者 部長 山田佐知子 副部長 王麗楊 医員 小谷野爽音 医員 安藤健介
共同研究機関名・研究責任者	なし
本研究の目的・利用方法	腎生検は腎臓病の病理診断を行い、治療方針決定や予後の推定に必要な検査である。血管の豊富な腎臓から組織を採取するため術中、術後に迷走神経反射や出血性合併症を生じることがある。出血性合併症を生じたときの対応として、輸血の必要がある場合には迅速な輸血が重要であるが、一般病院では急に輸血が必要になったときに患者血液と適合する血液製剤の在庫があるとは限らない。今回用いたType & Screen（T&S）とは輸血が必要となる可能性が30%以下程度と低い場合に、効率的に無駄なく輸血製剤を準備するシステムであり、輸血が必要になった際に血液製剤を15分程度で準備できる。 過去の臨床研究で腎生検後に出血性合併症を起こすリスク因子が複数指摘されているが、これらリスク因子が複数該当するハイリスク群に対してあらかじめ輸血製剤をT&Sで準備することの安全性、有効性を調査した研究はまだない。 今回当院での腎生検の安全対策として腎生検症例の出血性合併症リスクを評価し、評価の結果出血性合併症のハイリスクと判断した症例に対してT&Sでの輸血準備を行なうことで輸血開始までの時間を短縮できたかどうか、また医療経済的に妥当であるかどうかを調査する。有効性を評価するにあたり、過去当院で腎生検を行った症例のデータと比較を行なう。 研究結果は国内の学術集会や医学雑誌に発表する。
研究期間	期間1 2021年11月から2023年10月までの間に当院で腎生検を行った患者（比較対象） 期間2 2023年11月から2025年10月までの間に当院で腎生検を行った患者（T&Sでの輸血準備）
研究の方法（対象となる方）	2021年11月から2025年10月までの間に当院で腎生検を施行された症例。期間2の2023年11月から2025年10月までの期間においては、腎生検を施行されかつ不規則抗体陰性でT&Sの対象となった症例。
研究の方法（利用する情報）	年齢、性別などの個人情報、クレアチニン値などの採血データ、腎臓長径などの検査データ、病理診断名、高血圧症の有無、抗血小板薬や抗凝固薬内服の有無、腎生検後の出血や輸血の有無、輸血をした場合輸血までの時間などの臨床情報を用いて後ろ向きコホート研究を行なう。
使用する試料・情報の他機関との授受	なし
お問い合わせ先	大阪府済生会茨木病院 【電話】072-622-8651 【担当者】谷野
備考	